

学校等の校庭・園庭における空間線量低減策の検証に向けた実地調査について

1. 目的等

福島県における児童生徒等が学校で受ける放射線量をできる限り低減させる方策の一つとして、学校等における校庭・園庭等の表層の土を敷地外へ持ち出さない「上下置換工法※1」などの方法が有効と考えられることから、その効果や具体的な方法等について実地検証を行うことを目的として、空間線量低減策に関する実地調査を実施する。

2. 調査実施日

平成23年5月8日（日）

3. 調査場所

福島大学附属中学校及び福島大学附属幼稚園※2の校庭・園庭等

4. 調査内容

- ①校庭・園庭等の表面の空間線量率の分布状況の把握
- ②深度を変えた場合の校庭・園庭の土壌に含まれる放射性物質による線量状況の把握
- ③局所的な上下置換工法等の効果の確認
など

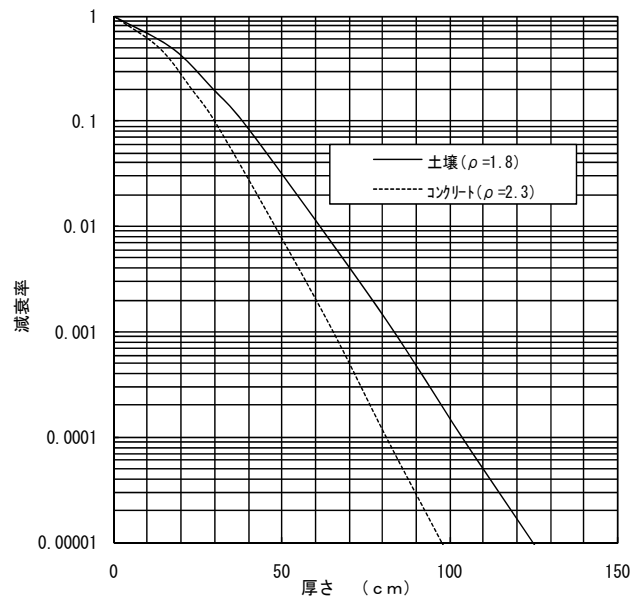
5. 実施主体

独立行政法人日本原子力研究開発機構（文部科学省）
（国立大学法人福島大学と協力）

※1 同じ敷地内において表層の土と下層の土を入れ替える手法

※2 4月14日の文科省調査において空間線量率 $3.8 \mu\text{Sv/h}$ 以上が測定された学校

参考：覆土または置換（上下入れ替え）による
放射線量の低減効果



放射性物質を含む土をどの程度被覆するかは、その場の放射性物質の存在状況によって異なるが、被覆することによって地表の線量を大きく低減することができる。

((社) 日本アイソトープ協会：アイソトープ手帳 11 版 p174：コンクリートに対する Cs-137 の透過率を使用し土壌の密度に対して変換)